



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(4)

【概要】

令和4年9月16日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授が理工学科の学部生、先進健康科学研究科(理工系)の大学院生らとともに本年度4回目の理科実験教室を実施しました。

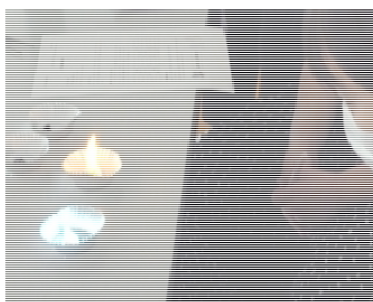
【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行っています。

令和4年度第4回は9月16日(金)に理工学部化学部門 長田 聡史 教授が先進健康科学研究科(理工系)の大学院生および理工学部理工学科生命化学コースの学部生とともに、「炎の色は変化する?」と題して、炎色反応の理科実験とともにアロマキャンドルを作るワークを行いました。

子どもたちの夏休みが明けた9月の実施であり少し季節外れとなりましたが、花火の色に関わる炎色反応の実験を行いました。エタノールを染み込ませたコットンにヨウ化カリウム、塩化リチウム、塩化ストロンチウム、塩化銅、水酸化バリウムなどの金属塩をのせ、着火することで炎に着色する様子を観察してもらいました。子どもたちは照明を落とした教室の中でエタノールが燃え尽きる頃まで炎の様子をじっくり観察して、見えた色を記録していました。

続いて炎にちなんだ実験としてアロマキャンドル作りを行いました。子どもたちは市販のロウを湯煎で溶かした後、好みの色にクレヨンで着色して、さらにアロマオイルを含ませました。芯を入れた型に溶けたロウを静かに注ぎ込んでオリジナルキャンドル作りに取り組みました。みんな熱心に取り組んだため教室での時間が足りないほどでした。



「理科実験教室」の様子